



謹賀新年



大杉執行委員長



新年明けましておめでとうございます。
昨年本所の取り組みに、ご理解ご協力を賜り大変ありがとうございました。年頭に際し、安全、政策、新人事制度の3点について述べたいと思います。

1点目は安全についてです。安全は「一丁目一番地」と言い、最も大切であることは誰もが理解をしています。

しかし、残念ではありませんが、事象や労災事故は後を絶ちません。労働組合として、重大労災が発生すれば、会社に申し入れを提出し再発防止に努めますが、事故のリスクを下げるためには、どのようにすればよいかを提起していく必要があると考えます。例えば、駅構内は、車両の往来等でほとんどの場所が危険であると認識しており、駅構内での作業時間が減ること、事故のリスクが下がると考えます。構内での作業時間が減り、同時に付加価値を上げる作業ダイヤが出来ないのかを検証・提案できればと思います。今後、自動運転技術やAI・IOT化が進み、「人間に危険な作業をさせない」「人間を危険な箇所に入れさせない」といった時代が来ると思いますが、まだまだ時間はかかりませんが、少しでも楽をしたい気持ちは分かりますが、こうした気持ちや油断が大きな事故を発生させてきました。過去の苦い経験を忘れず、自分の身は自分自身で守っていかなければなりません。

2点目は政策についてです。2030年春、北海道新幹線札幌延伸に伴い、青函共用走行問題が今後更にクローズアップされることと思われ、北海道経済、北海道雇用、道民生活レベルを下げないために、本州台道内の貨物列車運行は絶対に必要であると考えます。しかしながら、北海道新幹線のスピードアップも必要と考えます。私達がやるべきことは、本州北海道の鉄道貨物輸送量を上げ「北海道経済には鉄道貨物輸送が必要不可欠である」と誰もが納得する状況を作り上げていくことではないでしょうか。

私達は、JR連合国会議員懇談会と連携を図ると共に、二島（JR北海道・JR四国）・貨物経営自立実現PTTで、JR貨物の将来像を求めています。通常国会でJR貨物経営支援策である買換特例、新車特例延長が審議され、可決されることを注視していますが、JR貨物の発展、組合員が安心して働けるためにも、JR連合とともに政策課題解決に向け、誠実に取り組んでいきます。

最後に、2020年春闘では3年連続ベアを獲得し、労働条件改善に努め、ベアを積み上げることが将来に渡り多大な影響があることを認識してほしいと思います。

3点目に、新人事制度についてです。「社員が安心して生き生きと伸び伸びと力いっぱい働くことができる」会社を目指して、昨年4月に約50年ぶりの人事制度改正をしました。この春の昇給に伴う評価が、本人と評価者との照らし合わせることとなりますが、評価に疑問を抱くことがありますが、個人で対処する前に組合役員にご相談してください。皆が平等に将来まで安心して働ける制度を共に作り上げていきましょう。

最後に、2020年春闘では3年連続ベアを獲得し、労働条件改善に努め、ベアを積み上げることが将来に渡り多大な影響があることを認識してほしいと思います。

今年、JR連合から「JR連合ビジョン」が提起されます。JR連合、JR産業の一員として、仲間であるロジ労組と共に先頭に立って頑張っていく所存です。今年も宜しくお願い致します。

2020年新年 JR連合 荻山会長あいさつ



あけましておめでとうございます。組合員の皆様には、健やか新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年六月の大会でJR連合新体制がスタートしました。本年もJRグループの労使の発展のために責任ある運動を進めていく決意です。最優先課題である安全の確立、JR北海道・四国・貨物の経営自立の実現や自然災害への対応など政策課題の解決、二〇二〇春季生活闘争をはじめ働く仲間の地位向上の取り組みなど、私たちに関わる重要課題に向き合い、着実に前進させていくこととします。

貨物鉄産労の皆様とは、政策面で税制改正要望の実現に加え、新たに発足したプロジェクト「JR二島・貨物経営自立実現PTT」において、現行の支援措置の節目を迎える2021年度以降の将来像を明確にし、持続可能な事業運営体制を構築するために骨太の議論をしていく上で、緊密な連携を図っていく必要があります。お力添えをお願いします。

そして、本年はJR連合が果たす健全な労働組合と労使関係の必要性や重要性を皆様と共有し、私たちの組織と運動を磨くとともに、仲間を増やすための取り組みを強化したいと考えます。以下、その問題意識について提起します。

JRはグループや協力会社を含め二十万人以上の仲間が連携し経営が成り立っている産業です。そして、長期雇用を基本に技術、経験、知識やモラルを高め、人材育成を進めることが労使の持続的な発展につながると確信します。

近年は人手不足が深刻化し若手や中堅層の離職も増加する傾向にあり、とくにグループ会社、J R北海道・四国・貨物を中心に影響が及んでいます。今後、労働力不足がさらに進むとともに、技術革新によって業務内容や働き方が大きく変化することは避けられませんが、また、グループ、協力会社が担う役割の比重がますます高まるほか、職種、職制、地域、世代、性別など立場の異なる社員や、育児、介護、病氣治療など様々なライフステージにある社員が働き、多様な仲間を尊重し協力し合うダイバーシティの重要性が増してきます。

私は、こうしたJ Rグループの雇用や職場の特性や環境からみて、J R連合が担うべき健全な労働組合、労使関係の役割が非常に重要であると考えます。

ご指導を賜っている大学の先生から「私たちのことを私たちが抜きで決めないで」という言葉が労働組合の重要な役割を表しているのではないかと、という指摘をいただきました。わが国も批准している「障がい者の権利に関する条約」の基調となる考え方は、人生の相当時間を費やす労働において、働き方、働く環境、キャリア形成などの重要事項が当事者抜きで決定され会社から与えられるのか、働く側が能動的に策定に関与していくのか。後者が働く者のやる気につながるのには明らかです。しかし、会社は何万人もの個別意見を把握できませんし、上司・部下の職制の関係で本音を聞くことは困難です。だから民主的な労働組合、集団的な労使関係が役割を果たすべきなのです。

私は労働審判員の経験がありますが、個別の紛争処理では互いの不信は消えず、建設的な解決にならないと痛感しました。

紛争を予防するためにも、日頃から労働組合を通じて意見を伝え、納得できるルールやしくみを労使が作り、それを労働組合が主体的に職場で生かす取り組みが大切です。順風満帆なうちは気づきませんが、いざという時には労働組合が、そして労働組合が作ったルールが個人を守ってくれます。また、自分の働き方や仕事に関心を持つことは、仲間にも関心を持つことにつながります。労働組合の活動は立場を超えた仲間思いを馳せ、多様な仲間をつなげる機能も持っているのです。さらに、会社が気づかない現場起点のチェックや提言によって、会社の判断を正したり助けたりする重要な役割を果たすこともできます。

J R各社ともに若返りが進み、労使双方で国鉄改革など過去の記憶が薄れ、健全な労働組合、労使関係の必要性、重要性に対する認識が低下してきています。環境変化が進む中でJ Rの労使が将来に亘り持続的に発展していくために、J R連合に結集する百組合、八・三万名の組合員の参加で組織と運動を磨くとともに、J Rグループに働く仲間のJ R連合への総結集を進め、未来志向で責任ある役割を果たしていきたいと考えます。

本年も力強く様々な課題にチャレンジしてまいります。J R連合の運動への積極的な参加と協力を要請し、新年にあたってのご挨拶といたします。



辻村本部書記長



新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いたします。本部で書記長をお願いいたかっております辻村です。今年も自分なりの決意を述べたいと思います。

まずは、年々増えている甚大な自然対策です。昨年も度重なる大雨や台風により、全国各地で川が決壊し床上浸水や鉄道被災が起き、特に千葉県では、9月9日の台風15号、10月25日の大雨と立て続けに大規模被害となり、交通網寸断や農作物被害に見舞われました。一昨年の西日本豪雨を含め、被災地の復興にはまだまだ時間がかかり、被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。一日も早く元の生活に戻れることを切に願ひ、被災された方々のためにも復興に貢献できる安全で信頼されるJ R貨物会社を築きあげ、社会的使命を果たしていき、J R連合とともに災害に強い強度な鉄道設備を早期に作り上げていかなければならないと思っております。

J R連合の方針のもと「すべてのJ R関係者の死亡事故・重大事故ゼロ」を目標に取り組んでいます。2017年12月16日鹿児島線・千早操車場構内において旅客

列車と触車し、組合員が犠牲になったことは痛恨の極みであり残念でなりません。あの事故を教訓に触車事故再発防止に努めてきました。昨年7月幡生操車場構内・8月沼津駅構内と連続して触車事故が起きてしまいました。いざれも、迅速で的確な判断・処置で大事に至りませんでした。最悪の事態を招く恐れもある非常に危険な事象であったことは言うまでもありません。また、保安装置独断復帰や入換中の車両激突等、危険な事象も多く発生し、貨物連合の仲間である各ロジ会社においても、フォークリフト絡みの事故が連続して起きてしまいました。今年も、2020東京オリンピック・パラリンピックが控え、青函共用走行問題も考慮すれば、J R貨物には安全最優先の運行が求められており、業務においては常に責任感を持ち、再発防止・安全強化に対する取り組みを、より一層作り上げていかなければなりません。

次に政策課題です。青函共用走行問題については、世間からの関心も高く、ニュース等でも報道されています。今後、どのような形に収まるかは全く分かりませんが、2030年春には札幌まで開業予定です。あと10年をどのよう感じるかは人によって違いますが、時間は止まってくれませんが、J R貨物・J R北海道が共にWIN・WINとなるよう、J R連合と共に取り組んでいきます。

次に組織課題です。昨年、九州地区本部において組織拡大が成され、南関東ロジにおいても組織拡大が成されました。

この結果は、日々組織運動に尽力している結果そのものであり、この流れを全国に波及し、より一層邁進していかねばならないと思っております。勇気ある決断をしてください。仲間のためにも、J R連合・貨物鉄産労・各ロジ労組が連携を密にし、その総力を結集し組織運動を盛り上げていきたいと思ひます。

次に労働条件についてです。まず2020春闘においては、3年連続ベアを必ず獲得し、年間休日増・福利厚生充実、各種手当増額、職場環境改善を強く要望してまいります。人事制度においては、4月の昇給に対し、公正公平な判断が本場に成されたか検証し、もし差別等の行為が発覚した場合は断固たる処置をとることとします。

最後に、私は平成5年(1993年)4月、J R貨物に入社し、平成30年(2018年)に効績賞を頂き、その休みを利用して昨年の夏休みに車で、山形↓秋田↓青森↓岩手↓宮城↓福島↓の順で東北1周家族旅行(4泊5日)をしました。昼夜を問わず仕事や組合活動に従事できるのは、家庭を守る嫁のおかげであり大変感謝しております。今後も感謝の気持ちを忘れず日々精進していきたくと思っております。

思い起こせば、2007年の第23回定期全国大会で今村委員長が退任し、山崎委員長体制になったのは今から12年前。山崎委員長が2016年第32回定期大会で退任され、現

の大杉委員長体制となりました。第33回・34回・35回とこれまで3回の定期大会を開催してきましたが、これからはあらゆる角度から貨物鉄産労働・運営を精査し、これまで築き上げた貨物鉄産労がさらに発展するよう頑張っていく所存です。組合員の皆様におかれましては、体調を崩しやすい時期ではありますが、お身体に気をつけ、今後も本部に対し叱咤激励をお願いし、私からの挨拶を終わりたいと思います。本年も宜しくお願致します。



埴岡中央執行委員



新年明けましておめでとうございます。今年もよろしく願います。関西から出ています埴岡です。職場は関西保全技術センターです。新人事賃金制度により賃金体系が大きく変わりました。社会的に人手不足の荒波が既に迫ってきているなか、会社としても大きな変革時期にきていると思えます。働きに見合った賃金、働きに見合った評価がなされていることが正當に機能してこそ働きがいのある職場と言えます。そこを目標として微力ながらがんばります。簡単ではありますが、新年のご挨拶とさせていただきます。

関西地区本部福本委員長



全国の仲間の皆さん新年あけましておめでとうございます。関西地区本部委員長の福本です。昨年は自然災害、特に台風、大雨による大きな災害が発生し改めて自然の猛威を感じる年となりました。被災した皆様にはお見舞い申し上げます。被災した皆様にはお見舞い申し上げます。心を願っております。さて日本は「令和」と言う新しい時代に入りました。貨物会社も昨年度から新人事賃金制度が導入されこれまた新しい時代に入ったと言えます。そして、私たち貨物鉄産労も国鉄組から平成採用組へと運動の主体が移行されつつあり、真に新しい時代に突入しようとしています。この新しい時代を迎えた今、私たちに新時代にふさわしい運動が求められています。ご存知の通り私たちの組織は高齢化し減少の一途を辿っています。今までと同じ運動をしてはこの状況を打破する事は出来ません。また貨物会社もまだまだ経営基盤が安定しているとはいえませんが、この様な状況の中、労組に執って一番大切なのは政策提言能力とその政策を実行できる政策実現能力だと思えます。私たちはJR連合という優れた政策活動

社会的に評価され、認知されているJR連合の旗をしっかりと掲げ、政策を提言し、実行することで私たちの存在意義を示すと共に、私たちの価値を上げる事が大切です。そして、貨物鉄産労は必要な組合であるという事を内外に認めさせる行動が我々に求められていると思えます。組織の問題は避けられず、重要な課題です。政策活動と共に積極的に取り組み私たち貨物鉄産労を無くしてはならない価値ある組織にしましょう。とは言っても関西地区本部はこのところ、何年も組織拡大が出来ていない状況が読んでいます。組織拡大は、組織の根幹となる問題です。目をそらせる事無く、確実に前に進めていきます。新年を迎えるに当たり、このことを強く決意し新年の挨拶にしたいと思えます。全国の仲間の皆さん、今年もよろしくお願致します。共にがんばりましょう。

九州地区本部原書記長



新年おめでとうございます。日頃より九州地区本部にご支援を賜りありがとうございます。今年もよろしくお願いたします。安全最優先で日夜、作業に取り組んでおられる組合員の皆様に敬意を表します。しかしながら、昨年は九州地区においては3件の大きな事故が発生しました。

幡生操車場における操車の転倒労災事故。福岡ターミナルでの作業担当者による自動車事故。北九州ターミナルでの入換自動車とレールマスタールの衝突事故。一歩誤れば人身死亡事故に繋がる危険な事象であります。九州地区本部は3年前に痛ましい人身死亡事故を発生させており、今一度、安全に対して意識を高めて行かなければなりません。不十分な設備はないか、急ぎ作業はしていないか、各職場で検証し、安全経路等で取り上げて行きたいと思えます。安全に終わりはありませぬ。組織については、昨年は保全職場で1人新しい仲間を誕生させる事が出来ました。保全職場では近年躍進が続いており、この流れを他職場に広める取り組みを進めて行かなければなりません。九州地区本部も年々退職者が発生し、組織の自然減少は続きます。その中で組合役員世代交代も待たなすです。九州地区本部としては昨年の大会以降、3ヶ月に1回、九州ロジ労組を含め組合学習会を企画し、個々の力量を高めて行き、誰でも三役が出来る取り組みを進めています。各種行動がJR連合を通じて開催されますが、役員任せでなく全組合員で取り組む事が大事です。また、楽しい組合運動する為にはレクリエーションの充実も必要です。九州では交流ソフトボール大会を継続させていますが、若い組合員が参加しやすいレクリエーションを若手組合員が企画する取り組みを進めて行きたいと思えます。当たり前の組合運動を継続して、少数組合でも輝ける一年にしたいと思えますので、全国の組合員の皆様共に頑張りましょう。

あけまして

おめでとうござります。

本年も宜しく

お願い致します。

中央執行委員長

大杉正美

中央執行副委員長

小笠原浩文

書記長

辻村和裕

中央執行委員

埴岡大介

中央執行委員

吉永和文

中央執行委員

赤松重幸

中央執行委員

小山達礼

特別中央執行委員

内山進

会計監査

鈴木俊巳

会計監査

加藤典久

職員

田中千絵

令和二年 元旦

